

た よ り



〒518-0814 伊賀市上友生785番地

TEL&FAX; 0595 (21) 8839

URL:<http://www.iga.ed.jp/igaken>

E-mail:iga-ken@iga.ed.jp

6月も残すところ1週間となり、来週末にはいよいよ7月です。

今後、1学期の学習もまとめの時期に入っていきますが、積み上げてきた学びが定着・充実したものになるよう、願っています。

さて、今年度、伊賀市には51名（小学校教諭・中学校教諭・養護教諭・栄養教諭・事務職員）の初任の方が着任されました。大学を出たばかりの方、講師経験のある方など、さまざまですが、コロナ禍の中、大変苦勞されながら勤務されていることと思います。コロナ禍3年目になり、ようやく集合・対面型の研修講座が概ね実施できるようになってきましたが、まだまだ予断を許さない状況に変わりはありません。

そのような中、6月14日（火）、研修講座「初任者研修」を実施しました。

伊賀市教育委員会事務局学校教育課指導主事から「伊賀市の教育について」「情報セキュリティポリシーについて」、伊賀市教育研究センター研修員から「ふれあい教室について」「伊賀市教育研究センターについて」の話聞き、それぞれについて学びを深めました。

研修の最後には、小グループに分かれて、4月から今までの現状等についてグループ交流を行いました。

研修の様子や詳細については、研修ニュースや教育研究センターHP トピックスをご覧くださいと思いますが、本紙面では、研修後のアンケートをいくつか紹介し、初任者の思いや状況を共有するとともに、今後の指導や支援について考えてみたいと思います。



増える初任者をどう支援していくか？

～「初任者研修アンケート」から考えること～

アンケートを読む中で、最も多く記述されていることが「授業づくり」でした。次に多かったことが初任者として勤務し「2ヶ月経った振り返り」です。

すべてのアンケートを掲載することはできませんが、いくつかのアンケートを紹介しながら、以下の4点に整理し、問題提起を行い、各学校・園で役立てていただければと思います。（下線はこちらで引きました）

①授業づくり…日々の授業をどう創っていくか、一番の悩み！

- ・ 実際に社会科の授業の導入を見せていただいたことで、子どもを引きつける授業をすることを心がけることの大切さを改めて実感しました。しかし、今の自分の状態では、一つの授業だとしてもそのような余裕はないかもしれないとも思いましたが、頑張りたいと思います。(小)
- ・ 社会科の授業を2つ見せてもらった時に、1つ目の教科書どおりに授業をしていることが自分と重なった。少しずつ自分らしい工夫を取り入れた授業ができると良いなと感じた。授業のめあてとふりかえりがつながるような授業をつくっていきたい。(小)
- ・ 教科書で教える授業という内容が心に残り、同じめあてであっても授業の流れや発問次第で子どもたちが関心・意欲を高めることができると感じた。しかし、限られた時間の中で授業の準備や用具の準備をどうやって行うべきなのか、勤務時間でそうするべきであるか、などの工夫する点を聞きたかったという思いもある。今現在、なかなか教材研究に時間をあてることができない状況であるので、研修などを通して実際の声を聞きたい。(小)
- ・ 授業づくりや進め方などを改めて考えることができました。実際に子どもを演じることで子どもの意欲や興味はどこで生まれるのかを考えることができました。また、同じ初任の先生とお話をすることで、お互いが考えていることや授業で意識していることを共有することができてよかったです。伊賀市の教育について学び、今後の授業づくりや活動にかかしていきたいと思います。(小)
- ・ 子どもたちが安心して楽しく学校生活を送ることができるようになるために、普段の授業づくりを常に見直していきたいと思います。子ども一人ひとりの特性をしっかりと理解し、どの子ども「できる・わかる・楽しい」と思える授業を目指していきます。グループで交流を通して改めて人とのつながりの大切さを感じました。(小)
- ・ 同じ教科書のページの授業でも、発問や教材研究の違いで子どもたちのくいつきが全然違ってくるなと思いました。毎日の教材研究、大変ですが、少しでも頑張ってみようと思わせてくれるような研修でした。(小)
- ・ コロナで他の先生の授業を見に行けないので、今回のように少しでも見せていただけるとうれしいです。学習指導要領、アクティブラーニング、子どもとの向き合い方、言葉でわかっているでも実際の先生方はどうなさっているのかわからないので具体的に学べてよかったです。実践してみようと思いました。(小)
- ・ 実際に模擬授業をしていただいて、生徒が主体的に学ぶことのできる授業のイメージができたと思います。生徒の頭に学びが残るような授業をつくっていきけるように教材研究を進めると同時に、生徒に合った授業づくりをしていきます。(中)
- ・ 授業の導入について、2パターン見せていただき、2パターン目の方が興味のそそられる内容で、「調べてみたい」「なぜだろう？」と考えるのが楽しくなる内容でした。私も、導入のパターンに工夫を凝らして授業をしていきたいと思います。グループ交流で初任の先生とお話ができ元気をもらうことができ、また明日からも頑張ろう！と思いました。(中)

実際に二つの授業を受ける（児童生徒役）ことを通して、気づきや発見があり、学びが深まっていることがよく伝わってきました。アンケートの中にあるように、初任者の方は、「子どもたちが興味・意欲を持って主体的に取り組める授業にしたい」という願いを強く持っています。しかし、「なかなか授業をみる機会がなくイメージがわきにくいこと」、「限られた時間の中でどう教材研究を進めていくか、そのやり方を含め具体的な実践に学びたいこと」を強く感じました。初任者指導教員や校内指導教員が中心になって、授業を参観する時間の企画・実践を行うとともに

に、教材研究の方法などを具体的に指導・支援していると思いますが、校(園)内でどんどんそういう機会を保障していくことが必須です。1つの単元について具体的に教材研究を行い、そのことを違う単元や教科にも活用していける具体的実践を大事にするとともに、お互いの授業を気軽に見合える体制を創っていきたいですね。

②2か月が経って…悩みながら奮闘中、思いを出し合える場に一息♪

- ・ この2か月間働き、この研修を受けた時に、「これ、できていたかな？」とハッとする瞬間が何度もありました。自分の働き方を見直すとてもよい機会となりました。(小)
- ・ グループトークでは、他の学校の様子や日頃の話をするのができて楽しかった。学校外の先生と話す機会はあまりないのでよい時間になった。(小)
- ・ 毎日、教師としての理想と現場の現実に打ちひしがれているような状況です。ですが、教師としてのあり方、生徒の前での姿はぶれずに芯をもって働いていかなばならないと強く感じました。自分がなぜ教師になったのか、見つめ直す機会とテーマをいただき、ありがとうございました。(中)
- ・ 教員になって2か月、子どもとの関係性や授業の進め方、学校業務で忙しく大変だと思う時も多いけれど、他の教員の方の話を聞けたり、改めて自分がなぜ教師になりたいのかを話したりして、子どもたちが好き、学校が好きという気持ちになりました。2つの社会科の授業を受けて、自分も子どもたちが興味をひく授業を考えていきたいと思いました。(中)
- ・ 伊賀市の初任である同期と意見交流することができて、とても次の日から頑張れる活力をもらえました。研修にもあった教師同士の仲間づくりをこのような場でまた深めていけるとよいと思いました。(中)



初任者が一堂に会し、研修を深めるとともに、グループになり交流する時間がとても有意義なものになったことを感じました。また、「同期」と交流できたことが翌日への「元気」や「活力」になったことも伺えました。一方で、各学校で支えられながらも悩み、もがく姿があります。各職場で初任者の思いや悩みを受け止めること、相談にのることなどがどれだけ重要なのか改めて認識しました。各学校・園での取組をお願いします。同時に、同世代が交流でき、互いに強みも弱みも出せる時間や場の設定も大事なことだと痛感しました。コロナ禍でなかなか校外へ行く機会がない時だからこそ、当センターが実施する初任者研修についても他の講座のように連続形式(2回程度)で行うことも検討したいと思っています。

③コンプライアンス…積み上げてきた信頼が一気に…！！

- ・ 個人情報を扱う難しさを理解し、教育公務員としての自覚をもって働きたい。(小)
- ・ 情報セキュリティポリシーについて知ることができました。学校外の持ち出しが必要な時は、要注意したいです。(小)
- ・ 情報セキュリティポリシーをより一層強め、常に注意して過ごしていきたい。(小)
- ・ コンプライアンス意識について自分は大丈夫だと思っていたが、話を聞いて考えを改めようと思いました。(小)
- ・ セキュリティポリシーやコンプライアンスに関しては、何度も聞いたことはあるが、「ヒヤリハット」のこともあるように、定期的に繰り返し研修を受けることで注意が深まると思うので、今後も必要だと思った。(中)

「わかっているようで実はそうではない」ことに気づくとともに、「自分は大丈夫だろう」と思うことがいかに危険であるかを考える時間になったことがわかります。「要」注意、「一層」強め、「常に」、「定期的に繰り返し」…というところに、認識を新たにし、自ら「決意」されたことを感じました。コンプライアンスについては、初任者だけの課題ではなく、全教職員の課題であることを再認識し、学校・園総体として確認・研修していく必要があります。具体的な事例をもとに、みんなで考え合う事例集も県教委から出されています。「個人」の問題だけでなく、学校・園がこれまで大事に築き上げてきた信頼が一気になくなってしまうことを肝に銘じたいと思います。

④ 教研センター・ふれあい教室…「知る」から「つながる」へ！

- ・ ふれあい教室を見学させてもらう中で、子どもたちが楽しくそして落ち着いて過ごすことのできる工夫を見つけました。毎日忙しく、教室装飾があまりできていなかったことに気づきました。もっと教室が楽しいと思えるようなおもしろい工夫をしていきたいです。(小)
- ・ 教研センターなど施設について知ることができて、これから利用しようと思った。ふれあい教室も機会があれば、訪問したいです。(小)
- ・ ふれあい教室のことなど、今後お世話になるかもしれない施設を見ることができ、よかった。名前や内容は知っていたが、教室内へ入ったことはなかったので今後にかしたいと思う。(中)

研修の中で、研修員から「教育研究センター」や「ふれあい教室」について説明するとともに、実際にふれあい教室の様子を見学していただきました。多くのことは管理職が窓口となり、直接、初任者の方とやり取りするという事は少ないと思いますが、教育研究センターやふれあい教室のことを知っているのと知らないのとでは大きく変わります。ぜひ、身近に感じていただきたいと思っています。このことについても初任者に限らず、各学校・園で再度紹介していただくのがたいです。

以上、受講の様子やアンケートをもとに、4点に関わって整理しました。これらのことは初任者研修の対象者だけでなく、教員としての経験年数の少ないすべての方に通じる課題だと考えています。職種や経験の違いがあっても子どもたちの前に立つことには変わりはありません。当センターにおきましても、初任者研修から学んだことを今後の研修講座に反映させていきます。各学校・園におかれましても、初任者、経験年数の少ない教職員、さまざまな点で悩みながら勤務している教職員の支援体制を強化していただくことをよろしくお願いいたします。



雑感：冒頭にも記載しましたが、伊賀市では年々初任者が増えています。今年度はここ数年では最高の51名の方が伊賀市の教職員に採用されました。そういった最近の状況を考えた時に、いかに初任者や経験年数の少ない教職員の方を支援していくか、支援していくかは伊賀市の大きな課題となっていると感じています。また、コロナ禍が続いている中で、教育実習も全く経験していない場合や期間短縮の場合など、そういったケースもあります。コロナ禍になり、学校・園では、中止を余儀なくされた教育活動や学校行事が多数ありました。そのような中、知恵を絞りながら実施方法や内容を新たな視点で検討し再構築してきました。経験豊富な教職員であっても大変な日々になっています。そういった時だからこそ、状況をしっかりと把握・分析し、学校・園総体として若い世代を育てていくという理念と実践がなければならないと思っています。